

日本口腔衛生学会ニュースレター Vol. 6

NEWS LETTER



2022年4月発行 一般社団法人 日本口腔衛生学会
ニュースレター第6号

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 (一財) 口腔保健協会内
TEL: 03-3947-8891 FAX: 03-3947-8341

E-mail: gakkai37@kokuuhoken.or.jp HP: <http://www.kokuuhoken.or.jp/jsdh/>

発行人 天野敦雄 編集 広報委員会



CONTENTS

- 第71回日本口腔衛生学会・総会の開催のご案内
- 各種お知らせ
- 大学／研究機関の教室紹介
- 広報委員会より（編集後記）
- ココが聞きたい：ポケモンスマイル

第71回 日本口腔衛生学会・総会のご案内

大会長挨拶

大会長：於保孝彦（鹿児島大学大学院予防歯科学分野）



今期第71回日本口腔衛生学会・総会を5月13日（金）～27日（金）にわたり Web方式で開催いたします。

本学会・総会のメインテーマは、「進取の気風で切り拓く口腔衛生の未来」としました。「進取の気風」という言葉は、幕末から明治の時代にわが国の変革と近代化に貢献した郷土の先人の姿勢に由来し、自ら進んで困難な課題に挑戦する気質を意味します。新型コロナウイルス感染症の広がりに対して、感染対策はもちろんのこと、さらには新しい生活様式と価値観を創造できる地域社会の構築を迫られることになりました。口腔衛生の分野でも次なる取り組みに向かって価値ある研究報告が数多くなされることを期待して

おります。

本学会・総会の内容は、特別講演（2演題）、受賞講演、シンポジウム（8演題）、ミニシンポジウム（2演題）、口演発表（16演題）、ポスター発表（58演題）となっております。特別講演1は鹿児島大学農学部長の橋本文雄先生に「花と健康」というテーマでお話をお願いしました。コロナ禍で人と人のふれあいが減少し気持ちが沈みがちな日が続きます。花の持つ人の心を和ませる力を始めとした健康増進作用について、美しい花の写真とともにお話いただきます。特別講演2では鹿児島大学病院医療情報部長の宇都由美子先生に、「Society5.0時代のヘルスケア」についてお話いただきます。新型コロナの流行を契機にヘルスケアのDX化が進む中、口腔衛生の分野でどのような対応ができるかを考えたいと思います。シンポジウムは、フッ化物、生活習慣病、歯科保健行動、国際歯科保健、禁煙、周術期臨床、歯科衛生士の役割、そして研究の未来、と多岐にわたる内容が企画されています。また、ミニシンポジウムでは論文の書き方および加熱式タバコに関する情報提供が予定されています。一般演題は、お陰様で74の演題をご応募いただき、新型コロナ関連の発表も7演題あります。

皆様のご参加を心からお待ち申し上げます。

シンポジウム 1

座長：三宅達郎（大阪歯科大学歯学部口腔衛生学講座）

廣瀬晃子（朝日大学保健医療学部総合医科学講座）



2021年5月、WHOの第74回世界保健総会におきまして口腔保健に関する決議が承認されました。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、WHOにおいて口腔保健の重要性が提唱されたことは、大変意義深いことだと考えております。

このシンポジウムでは、これからの日本口腔衛生学会を牽引していただく4人の新進気鋭の研究者にご登壇いただき、さまざまな角度から、フッ化物応用に関わる新しいエビデンスや考えをお示しいただくとともに、WHOの口腔保健の決議を受けて、今後、フッ化物応用をどのように推進していくべきなのかを討議してまいりたいと考えております。

多くの方々にご参加いただきますよう、お願い申し上げます。

シンポジウム 2

座長：片岡宏介（徳島大学大学院口腔保健福祉学分野）



口腔衛生・予防歯科における基礎・疫学・臨床研究の未来

本会には、基礎研究をはじめ、疫学研究、臨床研究といった多岐分野にわたるエキスパートがたくさんおられる一方、多岐にわたるゆえ、会員同士の交流も薄くなりがちと考えます。

「学会の専門性を問う」という前回の総会テーマから始まった本シンポジウムですが、今回の総会テーマが「進取の気風で切り拓く口腔衛生の未来」であることから、この度は本学会の新進気鋭の若手5名の講師の方々にご登壇いただき、最新の研究知見とその展望について、異分野の研究者や若手研究者にもわかりやすくお話していただきます。そして、後日オンライン会議システムを使った一般学会員（特に若手の研究者！）の方々との講師の先生方との意見交換、また本会の基礎・疫学・臨床研究の未来について議論を行いたいと考えます。動画視聴期間後の6月2日（木）18時から約1時間を予定しており、参加方法は、動画内座長の挨拶時に詳細を掲載しています。本シンポジウムに参加していただくことで、各講師の先生方の研究や考えに共感する同志が1人でも増え、口腔衛生学会の結束が強固となり学際的な研究へと展開されることなどを期待しております。

シンポジウム 3

座長：安藤雄一（国立保健医療科学院生涯健康研究部）

佐々木 健（北海道釧路保健所）



生活習慣病と歯科口腔保健

～コモンリスクアプローチとデータヘルスの観点を中心に～

歯科口腔保健は、残念ながら、今わが国で行われている生活習慣病対策の歯車として機能しているとは言い難い状況にあります。地域口腔保健委員会では、これを打開するには「コモンリスクアプローチ」と「データヘルス」が重要なキーワードと捉え、下記内容のシンポジウムを企画しました。

- ① 鈴木 淳（仙台市宮城野区保健福祉センター）「生活習慣病予防対策におけるデータヘルスの取り組み」
- ② 文元基宝（文元歯科医院）「スナッキングカードによる間食の見える化と生活習慣病予防への活用の可能性」
- ③ 深井稜博（深井歯科医院、深井保健科学研究所）「生活習慣病対策の場としての歯科診療室」

なお、事前に口衛誌最新号（72巻2号）の委員会報告・提言「生活習慣病対策における歯科口腔保健のあり方」をお読みいただくと有り難く存じます。

シンポジウム 4

座長：安細敏弘（九州歯科大学地域健康開発歯学分野）
久保庭雅恵（大阪大学大学院予防歯科学）



歯科保健行動を促す戦略を考える

～個人レベルから集団レベルまで、健康行動を1ミリ変えるには～

学術委員会では学会声明『生涯28』を達成できる社会の実現を目指し活動をしてきましたが、今回の学会では、歯科検診の受診行動や日々の歯科保健行動をどうすれば行動変容につなげることができるか、という視点でシンポジウムを企画しました。従来から皆さんが抱えている課題であるにも関わらず、これといった方策がなかなか見つからない課題ではないでしょうか。昨今、行動経済学の理論（例えば、ナッジ理論）を活用した健康支援活動やアプリやデバイスを用いたさまざまな取り組みが生活習慣病対策に取り入れられている現状を踏まえ、アップデートな情報を共有し、さらには歯科保健に応用可能な次世代の戦略について議論を深めたいと考えています

シンポジウム 5

座長：小川祐司（新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野）



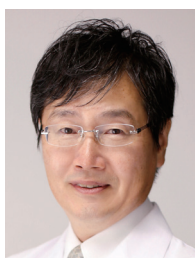
ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成のためにアジア諸国での高齢者口腔保健をどう推進するか？ ～日本の経験をアジア諸国へ～

国際交流委員会では、アジア高齢者口腔保健コンソーシアムのもと、高齢化が進むアジアにおける高齢者口腔保健研究や活動の支援を進めています。本年度は、表題のシンポジウムを企画し、日本の培った経験や知識、技術などをアジア諸国でどのように活用し実践していくことができるかを考えます。

原田有理子先生には、Healthy Ageing にて必要とされる口腔健康の推進について、岩崎正則先生には、高齢者の口腔健康と口腔機能の評価法について、遠藤真美先生には、支援を必要とする高齢者に対する口腔健康サービスの意義と提供法について、高世尚子先生には、人生100年時代の口腔健康の推進について、それぞれの専門的立場から活発に論じていただく予定です。皆様のご参加と議論へのインプットをお願いいたします。

シンポジウム 6

座長：埴岡 隆（宝塚医療大学保健医療学部 特別教授）
小島美樹（梅花女子大学看護保健学部口腔保健学科）



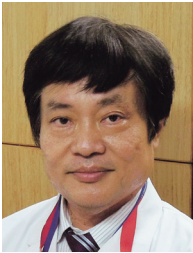
歯科禁煙支援をめぐる最近のトピックス ～基礎、臨床から公衆衛生まで～

（ミニシンポジウム「新型タバコ、特に加熱式タバコに関する注意喚起」を考える、を含めて）

たばこ対策先行国では、専門家が新たな知見を継続して更新することが重視されています。健康専門家が正確で新しい情報を公衆に伝えることが大変重要だからです。今大会は、たばこ対策や禁煙支援に関して歯科を中心とした基礎・臨床・公衆衛生の最近のトピックスを紹介し、受動喫煙防止の普及と新型タバコ流行の課題を、進取の気風で切り拓く突破口としての歯科の重要性の考えを新たに、歯科禁煙推進の議論を深めます。そして、緊急企画ミニシンポジウムでは、禁煙宣言（2002）・受動喫煙防止・歯科禁煙推進に関する宣言（2016）による「たばこのない世界」実現の観点から「加熱式タバコに関する注意喚起」を基にガムタバコ・スヌースの新型タバコ発売に際しての警鐘の経験を活かし次なる宣言と口腔衛生の未来を語ります。

シンポジウム 7

座長：梅田正博（長崎大学大学院口腔腫瘍治療学分野）



薬剤関連顎骨壊死（MRONJ）を考える ～リスク因子の解明と予防歯科医の役割～

これまで薬剤関連顎骨壊死（MRONJ）への対応として保存療法を第一選択とすること、抜歯はMRONJ発症リスク因子でありできるだけ避けること、抜歯時には骨吸収抑制薬の休薬を検討すること、MRONJ治療中は骨吸収抑制薬を中止することなどが行われてきました。しかし最近では、MRONJの標準治療は手術、感染源になりうる歯は逆に積極的に抜歯、抜歯前の休薬は不要、MRONJ治療時の休薬も不要であるとする報告が相次いでいます。MRONJは予防と早期発見、早期治療が非常に重要です。そのため歯科医師はMRONJの予防法や診断法、治療法について熟知しておく必要があります。本シンポジウムでは最新の知見について取り上げる予定です。

シンポジウム 8

座長：尾崎哲則（日本大学歯学部）



生涯を通じた口腔保健の推進 ～歯科衛生士が目指すもの～

「生涯を通じた口腔保健の推進のために、歯科衛生士が目指すもの」というテーマで、3の方に講演をお願いしましたが、歯科衛生士として活躍している場のみならず、それぞれまったく違う経歴をお持ちであります。

歯科衛生士の就業場所については、歯科臨床現場が約95%になりますが、通常の歯科臨床以外の場で活躍している3の方に、生涯を通じた口腔保健の推進役としての歯科衛生士が目指すものについて、経験や現状に基づく講演をお願いしました。会場の皆さんとともに、テーマについて、各方向からの思いや考えを共有できればと考えています。

第5回は日本歯科大学新潟生命歯学部衛生学講座のご紹介です。

<https://www.ngt.ndu.ac.jp/hygiene/>

沿革

当講座は1974（昭和49）年3月に、坪根哲郎教授を初代教授として開設されました。坪根教授は着任から2年あまりで急逝され、その後に厚生省から末高武彦先生が赴任され、1978（昭和53）年に第2代教授に就任されました。末高教授は2011（平成23）年に定年退職されるまで、約37年間に渡り本学の衛生学関連の教育や研究に尽力されました。

そして2012（平成24）年に筆者が当講座教授を拝命し、現在に至っております。講座構成員は、鴨田剛司准教授と小野幸絵准教授のほか、大学院生1名が在籍しています。当講座は日本口腔衛生学会の認定研修機関にもなっており、本学の東京、新潟両学部出身者を中心に認定医、専門医の指導も行ってきました。

現在の研究テーマのご紹介

新潟を訪れた方なら、お土産に笹だんごを買われた方も多いと思います。クマ笹は古くから新潟県に自生しており、大型の葉はさまざまな用途に使用されてきたそうです。私どもの講座では、5年ほど前から唾液腺マッサージの際に使用するクリームについて研究を実施してきましたが、その成分として新潟県産の笹の抽出エキスを使用できないか検討しています。県北の村上市の笹の葉生産業者との共同で検討を続けているのですが、高齢化やコロナ禍の影響等が大きく心配しています。食品の包装や和食の飾りに、東北や新潟、長野などで笹は収穫されているそうですが、新潟の笹は特に大型で風味も良く、地元の笹だんごや富山駅の鱒ずしに主に使用されているそうです。特有の香りや抗菌性は、マッサージクリームの長所になりますし、地域を応援するためにも製品化できないかと考えています（笹の葉の工場の写真等を示します）。



採取を担うのは地域の農家の方々です



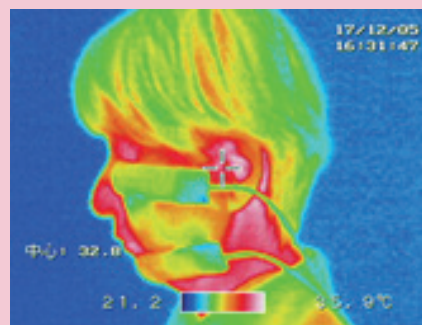
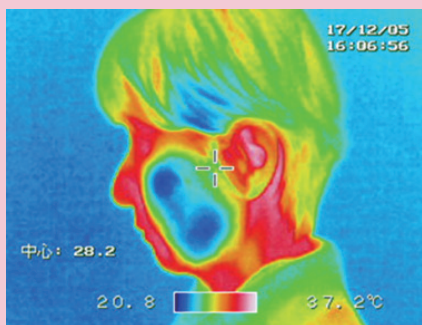
クマ、ヘビ、スズメバチがいる山です



笹の葉の生産・加工工程の多くは手作業で、その多くを高齢者が担う



笹だんごと試作した
マッサージクリーム



NIRS等を使用したマッサージ効果の確認

唾液腺マッサージクリームの研究以外にも、疫学的な研究等の成果を
講座ホームページでご紹介しております。

健康科学系カリキュラム共通化の検討

歯科医師と歯科衛生士の養成課程には共通する部分も多く、カリキュラムの共通化は将来的な単位互換や共通授業、合同講義を実施しやすくすると考え、従来から口腔保健学の共通教科書の作成等を検討してきました。これは将来的な教員不足に対応するためにも必要な事だと考えています。筆者は2021（令和3）年4月から新潟短期大学（歯科衛生学科）の学長を拝命し、学部と短大、新潟病院までを含めた教員交流を推進しています。

地域の研究の拠点として、人材育成や保健活動の拠点として、今後も地道に活動を継続できればと考えておりますので、今後も日本口腔衛生学会の皆様からご指導、ご鞭撻を賜りたく、よろしくお願いいたします。

（日本歯科大学新潟生命歯学部衛生学講座 教授 小松崎 明）

ココが聞きたい：ポケモンスマイル

日本歯科医師会広報担当 小山常務理事にインタビュー！

株式会社ポケモンが開発した未就学児・小学生低学年向けの無料スマートフォンゲームアプリ『ポケモンスマイル』<https://www.pokemon-smile.jp/>は、歯磨きに関する内容の助言等を公益社団法人 日本歯科医師会が行っており、両者は子どもの歯磨きなどを通じて口腔健康管理を推進する目的で普及啓発に取り組んでいます。今回は、日本歯科医師会広報担当の小山茂幸常務理事にインタビューを行い、この事業を進めるにあたりうまくいった点や苦労した点、今後の展望についてお話を伺いました。

このアプリ『ポケモンスマイル』は、12言語／158の国と地域において配信が行われており、全世界でダウンロード数は200万回を超えているとのこと。人気のポケモン達と一緒に、子どもが楽しみながら歯磨き習慣を身に付けられるように設計されています。カメラに映る歯磨きの様子を検知し、上手に磨けると100種類以上のポケモンを収集できる仕組みとなっています。

協力にあたって苦労した点は、エビデンスに基づいたメッセージをどのように伝えるかということでした。さまざまな専門家の協力を得て、わかりやすく伝わるようなメッセージを作成されたとのこと。ポケモンを集めきっても歯磨き習慣を継続できるか？や、もう少し上の年齢層に向けての更なるツールなどが今後の課題だと伺いました。

歯科口腔保健における行動変容については、本学会員にとっても非常に興味深いところであり、無料で簡単に利用できるICT活用は歯磨き以外の歯科口腔保健行動の啓発にも応用できる部分もありそうです。



各種お知らせ

各種事業などについてご案内申し上げます。

① 次期代議員・理事選挙のお知らせ（ニュースレター第5号再掲）

2022年度は次期代議員及び次期理事（任期：2023年社員総会終了時～2025年社員総会終了時）を選出する年度です。選出については、2022年4月1日から11月中旬頃まで、各地方団体によって行われます。投票権は、2022年3月31日までに会員名簿に記載された会員（名誉・永年・学生・賛助および地方団体のみ所属している会員は除く）に投票権があります。なお、選挙前年度までの会費未納者は除きますのでご注意ください。

② サンスター財団のジョスリン糖尿病センター等への留学助成募集

一般財団法人サンスター財団による、糖尿病をはじめとする糖尿病合併症や糖尿病との関連が疑われる疾患、歯科疾患に関しては他の全身疾患に広げた予防、治療についての基礎研究、臨床への応用研究支援です。募集期間は2022年4月1日～同年6月15日（当日消印有効）、書類審査等を経て医科系1名、歯科系1名の留学助成金受給者が決定され、2023年から最長2年間の留学期間となります（詳細は<https://www.sunstar-foundation.org/grants/how-to-apply>）。

③ 2022年度富徳会研究助成募集

公益財団法人富徳会では、口腔衛生の進展を期し、小児歯科学、口腔衛生学及び予防歯科学の若手研究者を対象とした研究助成、歯科衛生学および歯科衛生教育の向上につながる研究助成、海外留学研究者の研究費補助が行われます。応募者は富徳会ホームページ（URL:<http://www.isi-sys.net/futokukai/>）より詳細を確認のうえ申請してください。

④ 本会学会各種申請について（ニュースレター第5号再掲）

2022年度分の下記申請については、期限が2022年9月30日となっております。資格を満たす（ある）と思われる方は期日までにふるって申請してください。申請にあたっては、本会HP（認定制度関連 | 日本口腔衛生学会 (kokuhoken.or.jp)) にあります規則・細則をご参照ください。

- ・学会認定医（新規・更新）
- ・学会専門医
- ・学会指導医
- ・学会認定地域口腔保健実践者
- ・認定歯科衛生士

編 集 後 記 広 報 委 員 会 よ り

今回お届けするニュースレター6号は、広報委員の恒石美登里先生、田口千恵子先生、遠藤眞美先生および安細で担当しました。

本号は、第71回学術総会直前号ということで、シンポジウム等の企画に絞ってご案内させていただきました。また、教室紹介では、小松崎先生に寄稿いただきました。実は、昨年度オンラインで開催された甲信越北陸口腔保健研究会に参加しており、興味深い活動をされていることを知り、是非書いてほしいとお願いした次第です。オンラインで学会参加できることで、現場に行かなくてもアップデートな情報が得られるというのはオンライン学会の最大のメリットではないかと思います。また、6号の目玉としてポケモンスマイルについての日歯とのインタビュー記事を掲載させていただきました。このアプリのことを個人的には知ってはいましたが、開発の裏側といったエピソードを聞けないかと恒石先生に相談したところ、小山常務とのインタビューが実現しました。ニュースレターのコンテンツとしてまだまだアイデアはありそうです。ニュースレターをお読みいただいた方々からの率直なご意見、コメント等をどしどしいただき、さらによいものにしていければと考えております。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

(安細敏弘)